

建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン

- 木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵している。木材利用の一層の促進を通じてカーボンニュートラル実現に貢献するため、林野庁が、建築物に利用した炭素貯蔵量を国民や企業にとって分かり易く表示する方法をガイドラインとして示したもの。
- 建築物のみならず、家具や木工品、木質部材等についても、本ガイドラインの計算方法を使用して製品単位の炭素貯蔵量を表示することができる。

建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の算定シート

<シートの構成>

「1_入力シート」：建築物に使用した木材の情報の入力をするシート

「2_出力シート」：炭素貯蔵量等の算定結果を表示するシート

「0_入力例」：「1_入力シート」の入力例があるシート

「98_比較前提条件」：「2_出力シート」の前提条件を整理したシート

「99_データベース」：木材の密度の自動表示を行うために必要なデータシート

- この入力シートは、「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）で示した、炭素貯蔵量（CO₂換算量）の算定を、必要な情報を入力すると自動的に実行できるシートになります。
- この入力シートでは、ガイドラインの参考1「樹種別気乾密度の値の例」、参考2「合板、木質ボードの密度の値の例」で示した及び参考3「建築用資材の炭素含有率に値の例」で示した、数値を算定に使うことを前提としています。
- 他の文献等の値を用いる場合は、適宜セルに入力された数式を改変等して利用いただくことが可能です。
- 炭素貯蔵量の算出に当たっては、完成した建築物本体に利用されている木材の量を元に算出することとなりますが、当該木材の量については、把握できる段階で事業者等において算出いただければ構いません。

算定年月日	
会社名	
物件名	
延べ床面積	m ²
算定者	

◆セルの色について、青は必須入力(記述又はプルダウン)、オレンジは任意入力、白は自動計算

No	区分	部材、製品名等	建築物に利用した木材の量 [単位:m ³]						木材の炭素含有率	建築物に利用した炭素貯蔵量 [単位:t-CO ₂]	産地別の内訳		
			国産材			国産材以外(国産材・国産材以外の区分不明を含む)					合計 [単位:m ³]	国産材 [単位:t-CO ₂]	国産材以外 [単位:t-CO ₂]
			樹種	利用量 [単位:m ³]	木材の密度 [単位:t/m ³]	樹種	利用量 [単位:m ³]	木材の密度 [単位:t/m ³]					
1	製材区分(製材・集成材・CLT等)	105mm正角3.65材	スギ	20.0	0.331	ベイツ	5.0	0.479	25.0	0.500	16.5	12.1	4.4
2	製材区分(製材・集成材・CLT等)	集成材 柱	スギ	10.0	0.331				10.0	0.500	6.1	6.1	
3	製材区分(製材・集成材・CLT等)	フローリング 200m ²	シラカンバ	15.0	0.496				15.0	0.500	13.6	13.6	
4													
5													
6													

プルダウンにない樹種は手動で入力下さい。(全角カタカナ)
タブ「99_データベース」の樹種名を入力すると自動で木材密度が表示されます。